



ケアマネ みやざき



一般社団法人
宮崎県介護支援専門員協会
ケアマネみやざきNo.16
平成28年1月1日発行
発行責任者
担当理事 坂口 和幸

「会長挨拶」

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本協会の運営に深いご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、本協会は会員の皆さまの御協力のもとに3層構造を実現して早いもので2年が経過しようとしています。おかげさまで年度初めにお示ししました事業計画は順調に進行しております。現在、日本介護支援専門員協会の支部として情報交換を密に行い、厚労省や他の職能団体とも極めて友好的な関係を堅持できています。一方、県内では各市町村レベルで地域ケアマネ団体の支部化が本格化しており、地域ブロックネットワーク活動も活発化してきています。介護保険をめぐる環境は目くるめく変化しており、制度改正にも遅滞なく追従していく必要があります。今年には新カリキュラム制度下での法定研修も始まります。地域ケアマネ団体の皆さまお一人おひとりの声を集め、この介護保険の改革に的確な意見を中央に伝える必要があります。そのために本協会の組織強化が重要なことは言うまでもありませんので、引き続きよろしくお願いいたします。

医療ニーズと介護ニーズの両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が大きく叫ばれています。このたび在宅医療・介護連携推進事業が介護保険の地域支援事業に組み込まれました。平成30年4月までに各市町村に地域協議会が設置され、在宅医療と介護の連携推進拠点が整備されることとなります。まさしく「地域包括ケアシステム」の根幹を担う職能団体として、「ケアマネジャー」が注目されてくるのは必定です。

少子高齢化の到来により、通院が困難となり、「おおむね在宅、時々入院」という言葉に象徴されるように医療の在り方そのものが大きく変わり、訪問診療を必要とする高齢者が増えてきました。一方で、国策により急性期病院等における在院日数の縮減が進められる中、地域での介護の担い手不足などにより、自宅以外に有料老人ホーム・サ高住などに住まわれている高齢者も多く、これら高齢者施設からの救急搬送患者が増えています。入退院が必然的に多くなる高齢者が尊厳ある暮らしを継続できるには、これまでのような病院完結型の医療だけで支えることは困難であり、まさに多職種協働による地域完結型の医療が求められています。在宅医療には緊急時に高水準の医療を提供できる「後方支援病床」の確保と合わせて退院調整が極めて重要であり、その退院調整を介して多職種協働をますます充実させることで患者・家族がより安心・安全な在宅医療を享受できるものと考えます。私たちケアマネジャーは地域の実情に応じた形で、地域資源を活用しながら、目の前の人を「生活者」と捉え、街づくりを進めていきたいものです。



一般社団法人
宮崎県介護支援専門員協会
会長 牛谷 義秀

宮崎県介護支援専門員協会 三層構造確立へ向けての動き

本年度がスタートし、8月1日付けで「えびの市介護支援専門員連絡協議会」、9月10日付けで日之影町・高千穂町・五ヶ瀬町を合同の「神話の里ケアマネジャー連絡会」更には11月7日付けで「延岡市介護支援専門員連絡会」と3つの地域支部が発足し、宮崎市、日南市、串間市、都城市について7つの地域が支部化されました。今回、延岡・西臼杵担当の児浪理事より三層構造実現についての思いをお聞きしました。

職能団体としての三層構造の必要性については数年前から意識していました。国・県・市町村レベルの介護支援専門員の組織が一本化することで職能団体としての強みが増し、介護支援専門員の地位確立にもつながると理解していましたが、私の勤務する地域には介護支援専門員数も少なく地域支部が存在せず、一から組織化する必要性がありました。三層構造及び地域支部の必要性などを、機会あるごとに説明させていただいた結果、徐々に賛同者も増え、同じ方向を向いて進む仲間ができ、あとは組織化するのみの段階となりました。この時に気が付いたことがありました。実は自治体や他の職能団体などが、介護支援専門員の地域のケアマネ団体を待っていたという事でした。周囲から期待を受けての支部化となりましたが、まずは介護支援専門員の皆さんがお互いに情報発信をし、活動しやすい環境を作り、それが結果的に他の職能団体との連携に結び付くことが出来るような支部にしていきたいです。
(延岡・西臼杵担当理事 児浪 俊之)

宮崎県介護支援専門員協会 今後の研修会などのお知らせ

◆平成27年度 宮崎県介護支援専門員協会 研究大会◆

テーマ 『高めよう！今こそケアマネジャーの力を』

日時 平成28年2月11日(木・祝日)
10:00～15:40 (9:00受付開始)

場所 JA・AZMホール本館大ホール

講師 厚生労働省 老健局 振興課 課長補佐 川島 英紀 氏
宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 吉村 学 先生



◆平成27年度 施設ケアマネジャー研修会◆

テーマ 『認知症高齢者のケアマネジメントについて』

日時 平成28年3月5日(土)
10:00～15:00

場所 JA・AZMホール別館302

講師 特別養護老人ホーム 富の里 藤崎 陽子 氏



※研究大会・研修会ともに県協会ホームページにて詳細確認できます。

地域ブロックネットワーク 及び協会主催研修会報告

西都・児湯ブロック研修会 ☆ 平成27年9月12日(土) 木城町社会福祉協議会 ☆

テーマ『権利擁護のための連携と実践』～事例を通して学ぶ～

講師 社会福祉事務所「みのり」安藤 実和子 様

現在の日本における成年後見制度、日常生活自立支援事業の説明後に、虐待ケースなどの実際の事例を通して介護支援専門員自身の職域のなかで、困難ケースに向き合うための知識や対応方法を学ばせていただきました。様々なケースに関わる介護支援専門員にとって、介護保険制度だけでは対応では困難なケースも増えており、改めて必要な機関との連携の重要性を強く感じることで研修となりました。



県北ブロック研修会 ☆ 平成27年12月5日(土) 日向市中央公民館 ☆

テーマ『地域ケアとは？ 今、私たちに求められている事』

講師 株式会社「浪漫」代表 黒岩 尚文 様

黒岩先生は、全国小規模多機能型居宅介護事業所連絡協議会の副代表をはじめ多方面でご活躍されており、今回の講演は非常に有意義な時間となりました。

環境をフルに活用し、本人の可能性を引き出すことが、私たちの求められる事であり大きな役割だという事を学ばせていただきました。



県央ブロック研修会 ☆ 平成27年12月13日(日) JA・AZMホール ☆

テーマ『在宅訪問における栄養改善』

講師 宮崎県栄養士会 栄養ケア・ステーション 日高 知子 様

介護支援専門員と栄養専門職との連携の在り方を、27年度宮崎県栄養ケア・ステーションとしての「在宅訪問栄養指導」の事例を基に、講義をいただきました。事例を通し専門職の連携をしっかりと行っていくことで、利用者の望む暮らしが実現できることが良く理解できた研修となりました。



県協会主催研修

テーマ『課題整理総括表の役割と活用方法に関する研修会』

講師 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター
シニアマネージャー 齋木 大 様

基礎編を3回、また実践編を1回開催いたしましたが、どの研修会もすぐに定員に達し、会員の皆様のご関心が非常に高く、また質の向上に向け常に努力されている様子が伺えました。

研修では、課題整理総括表と評価表が策定された背景から、地域包括ケアの推進に向けた課題整理総括表の活用方法まで幅広くご講義いただきました。先生は、課題整理表はアセスメントツールではないという事を認識してほしいと話されていました。



第7回日本介護支援専門員協会 九州・沖縄ブロック研究大会 in 長崎 (ハウステンボス)

今年の九州・沖縄ブロック研究大会は、長崎県「ハウステンボス」を会場に開催されます。
今大会は、介護支援専門員及び介護保険に関わる専門職の資質向上を目的としています。

特に今回の大会は、平成30年の介護報酬及び診療報酬の同時改定を控える中で、専門職としての、これからを考える非常に重要な大会となっています。

また、基調講演には桜美林大学院の白澤政和教授が決定しております。

是非、多くの会員の皆様のご参加をお願い致します。

テーマ 『地域の核となれ ケアマネ達よ！』
日時 平成28年3月5日(土) 9:30~17:30
場所 長崎県 ハウステンボス

J R A T っ て 御 存 知 で す か ？

Japan Rehabilitation Assistance Team (大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)

平成23年3月に発災した東日本大震災を教訓に、平成23年4月に「東日本大震災リハ支援10団体」が立ち上げられJ CMAも加盟をいたしました。平成25年8月に現在の名称に変更し新たな大規模災害に備え、リハビリテーション支援チームの育成・組織化・ネットワークの構築が行われております。現在、宮崎県ではJ R A T 宮崎支部の組織化も行われ、平成27年9月には第1回目の研修会が開催されました。当然、宮崎支部には宮崎県介護支援専門員協会も加盟をしています。

ここで介護支援専門員に期待されていることは、避難所や施設などでリハビリを必要としている人たちの情報を、D r ・ P T ・ O T ・ S T などの各専門職へ送ることです。地域の情報は、介護支援専門員が一番把握していると考えられています。しかし、介護支援専門員の持っている情報を誰が集約し専門職へ流すのかなど様々な課題や問題があります。今後、定期的にJ R A T の研修会が企画される予定です。是非、多くの介護支援専門員の皆様にご参加していただき大災害に備えていきましょう。

宮崎県介護支援専門員協会会員数の動向

平成28年1月現在の地域ブロックネットワーク別会員数

ブロックネットワーク	正会員	準会員
宮崎・東諸県	597	12
小林・えびの・西諸	110	0
西都・児湯	82	0
日南・串間	126	1
都城・北諸県	176	4
日向・東臼杵	123	0
延岡・西臼杵	130	0
合計	1,344	17

平成27年度介護支援専門員実務研修受講試験の結果ですが、218名の方が合格されました。これから、研修が始まりますが、一人でも多くの方の県協会への入会を会員の皆様のご協力よろしくお願いたします。

編集後記

利用者が「年をとると一年が過ぎるのがはやい」と言われてたのが、最近何か解ってきました！と、言うことは、私も年をとったんだなあ〜って感じています。怪我をしても治り悪いし、疲れはとれにくいし、健康診断行ったら数値が気になるし・・・ あっ今年から介護保険料徴収されます(°^°)／

K.S